



－ 定番のゲームをマスターする①（新しい語彙に慣れ親しむ活動の充実）－

今回は「定番のゲームをマスターする」と題して、活動の具体的な進め方を紙上で再現してみたいと思います。

研修のリクエストで多いのは、やはり「具体的な活動の進め方（各種ゲームの進め方）」です。「定番のゲームの進め方が今一つよくわからない・ALTの先生とどのように進めたらよいか細かいところがよくわからない」といったものです。

「紙上の再現」ですので、どこまで期待に応えることができるかわかりませんが、できるだけ細かいニュアンス・感覚を伝えられるように努力してみます。

What's missing? (ミッシング・ゲーム)

通信No12でも紹介しました、ミッシング・ゲームからいきましょう。まずは、基本の確認です。

- (1) ねらい・効果…隠された絵カードが何かを考えさせることによって、語彙を記憶しなければならない状況を作ります。そして、絵カードの新出語彙を何度も聞いたり言ったりすることで定着を図ります。全体で一斉に行う場合には、児童に自信がない段階では「聞くこと」、少し慣れてくると「話すこと」の練習効果が期待されます。

- (2) 準備するもの…黒板やホワイトボードを使って一斉に行うときには、A4サイズ程度のフラッシュカードが、少し慣れてきてグループで行うときにはL版程度のミニカードが、グループの数だけセットが必要です。

- (3) 進め方 ・黒板やホワイトボードに絵カードを掲示します。

- ① Close your eyes. 「目をつぶって。」

Heads down. 「頭を下げて。」でもいいですね。

(ジェスチャーを使って動作の意味を補います。)

- ② カードを1枚取って隠します。

Don't look! Don't cheat! 「見ちゃダメ! ズルはダメ!」

- ③ Open your eyes. 「目を開けて。」

- ④ What's missing? 「(なくなったカードの辺りを指さしながら) 何のカードがなくなった?」(このフレーズは英語で言いたいところです。)

- ⑤ Raise your hand. 「手を挙げて。」(ジェスチャーを付けて) Bingo! (当たり!) / OK! 「いいよ!」

- ここまでが基本形です。ALTがいれば、HRT(学担)と交互に出題しましょう。ALTが児童とやり取りするときに発する自然な英語フレーズを、すぐ真似て練習することができます。これは、そのまま教室英語を増やすことにつながっていきます。しかも、ALTの先生によって使う英語フレーズが違ったりすると「あっ、そのフレーズでもいいんだ!」とバリエーションが増えます。授業の後は、すかさずメモしておきましょう。「自分だけの本当に使える教室英語集」が出来上がります。さらにいいのは、児童から自分たちの先生がALTの先生と一緒に活動を進めているように見えることです(実際そうです)。「英語もできる先生」への第一歩です。「児童と一緒に英語を学ぼうとしているモデル」への第一歩です。最後にアレンジのアイデアを3つほど紹介します。

- (4) アレンジ ① 一つは、隠す枚数を増やしていくことです。「一人が言えるのは1枚だけ」とすると、隠す絵カードを増やすたびに、答えられる児童の数を増やしていくことができます。

- ② 隠す枚数が少し増えてきたあたりで、残っている絵カードの位置をバラバラにすることです。目を開けたときに、残りの絵カードが元の位置と変わっていると、自分の記憶を最大限に引き出そうとする「集中力」がぐっとアップするようです。

- ③ 最後は「全部」隠してしましましょう! ここまで手を挙げるチャンスに恵まれなかった児童も、どれか1枚くらいは言えるようになっていくものです。すかさず指名してあげるといいですね。何より全ての絵カードの再確認ができます。ALTがいれば、ここはもちろん「お願い!」です。

今回はミッシング・ゲームを取り上げてみました。同じような形で、次回も何か活動を取り上げたいと思います。

また、もう少しで「移行措置案に対するパブリックコメント」の募集が終了し、最終的な「移行措置案」が提示されると思います。

このことについては、できるだけ早く通信でも対応したいと思います。

